

令和3年度 第2回 校長「語らいサロン」

令和3年7月3日（土） 9:00~9:55

テーマ

「最近のコロナの状況について」

Zoomオンライン開催

川中子 それでは、おはようございます。9時になりましたので始めます。私の声は聞こえていますでしょうか？ できたら、ビデオをオンにしておいていただくと、お話ししやすいかなと思います。よろしくお願いします。

それでは、土曜日の朝、お休みのところサロンにご参加いただきありがとうございます。今、3名の方が入ってくださっていますが、これから後から入ってこられる方もいると思いますが、少しずつ初めて行きたいと思います。

毎日、雨、雨、雨で。今日も子供たちもびしょびしょになりながら登校していましたけれど、皆様、お元気でいらっしゃいますか？ 今日、皆様の健康状態なんかについても、ここで話題にできればなあと思っております。

それでは、最初に、自己紹介していただきながら。お子さんの学年とクラスと、それから「最近、長く続いているコロナについて思っていること」などをお話しいただければと思います。それではこちらから指名させていただきます。では、Aさん、よろしくお願いします。

Aさん おはようございます。よろしくお願いします。1年生の保護者（父）です。今日はこのような機会をつくっていただき、ありがとうございます。コロナについて、そうですね。もう1年以上になるので、何か日常の一部になっている感があるんですけど。感じることは、どういう情報が正しくて、どの情報が間違っているかという判断が難しいと思うのですが。しっかり、そこを惑わされないようにして、自分の中で正しい情報を選んでいきたいなと感じております。よろしくお願いします。

川中子 本当にそうですね。情報が錯綜していると思います。まったく正反対のことを言うお医者さんもいますからね。自分でしっかり考えて、判断していかなければいけないと言うのは、本当におっしゃるとおりです。どうぞ、よろしくお願いします。それでは、Bさんよろしいでしょうか？

Bさん すみません、ちょっと化粧してなかったんで！（笑）1年生の保護者（母）です。そうですね。大人もこういう風になって行ってしまうんですけど、子供たちはどういう風を感じているのかっていうのは、実際にちょっと気になるところで。普通な感じはしてるんですけど、心の中ではどうなっているんだろうとか。聞いてもやっぱり、子供だからうまく表現できないじゃないですか。そこのところがどうなのかなって言うのが感じる場所ですね。

川中子 ありがとうございます。よろしくお願いします。Cさん、お願いします。

Cさん 1年、4年、6年生の保護者（父）です。よろしくお願いします。コロナで、Aさんもおっしゃっていましたが、大分慣れては来ているけれど、やはり、Bさんと同じで、子供たちのストレスというのが何らかあるんじゃないかと思っております。例えば、通常でしたら、騒いだりできる場面で、そこを我慢しなければならない。大人も、私は今メインで家で働いているものから、そこでもストレスを感じることもありまして、子供との仕事中共存というのも非常に難しいなと感じております。よろしくお願いします。

川中子 よろしく申し上げます。それでは、Dさん、よろしいでしょうか。

Dさん おはようございます。6年生と4年生の保護者（父）です。コロナについて感じていること。校長先生のメールにもあったように、会社とかですと、飲みに行けないですとか、リフレッシュできないと言うことで、ストレスがたまってきて、職場でのぶつかりが増えてきている感じがします。それも、

子供たちにも少しは影響するのかなって。

川中子 どうもありがとうございます。それでは、今日このテーマにしたのは、私も大変悩んでいるところがありまして、ぜひ保護者の皆様にもお知恵をお借りしたいなと思って、このテーマにしました。あっ、今、お一人入られた方がいますね。Eさん、聞こえますか。

Eさん 聞こえます！遅くなりました。

川中子 今日はありがとうございます。まず、みなさんに、自己紹介と、お子さんの学年とクラス、それから、最近コロナについて感じていることについて一言お願いしています。

Eさん 2年生の保護者（母）です。コロナに関しては、私が仕事が保育士をやっております。保育園に通っている園児に、私が感染して感染させないとか、逆に感染しないとかすごく気を遣って、手洗いとか、アルコール（消毒）をすごくやっているとか。子供たちはマスクはしていませんが、保育士はもちろんマスクをしているので、0歳児、1歳児、2歳児に対するときに、マスクをして、口元が見えないというのは、今後どのような影響が出るのかなと思って…。0歳児、1歳児の子供にとってはすごく大きな事だと思うんです。全く見えないで保育をすると言うことに、心配、というか、どういう影響があるんだろうと。それが仕事で、ちょっと心配なことです。

川中子 どうもありがとうございます。そうですね。小学生もそうですけど、保育園に通ってくるちっちゃいお子さんだと、その辺は深刻でしょうね。本当に察せられます。どうもありがとうございます。

それでは、今日のお話に入って行きたいと思います。まず、私の方から、学校の状況についてしばらくお話しさせていただきます。

（レジュメにあげた現状について説明）

子供たちの最近の様子で気になるのは、保健室の来室状況が例年の2倍になっていること。そして、主訴が頭痛って言うのが多いんですね。今まで、頭痛、っていうのは子供たちはなかったんです。体調が優れない。まあ、大人で言うと「不定愁訴」っていう感じですかね。軽い鬱状態ですよ。そういうのがあるんじゃないかなって言うのが心配です。実際、学校に来られなくなっている子というのはほんの少数なんです。学校には来ているけれども、そういう状況が続いているかな、というところなんです。

はい、それでは、学校の方はこのような状況だと言うことを私の方からお話しさせていただきましたが、ご家庭ではいかがでしょうかというのを皆様からお聞かせ願えればと思います。いかがでしょうか。Eさん、さっきお仕事の方で小さいお子さんのお話がありましたが、お子さん自身はいかがですか？

Eさん うちの子も、唯一の楽しみが体育って感じの子なんですけど、リレーはバトンを使わずにやっている、って聞いたので。今までやってたような、接触がある…。接触も結構大事だと思うんですが。子供の成長には。それがまったくないように体育をやっていると聞いて、すごい、何かストレスがたまっているんじゃないかな。先生たちが、接触をしないように何かを変えて、新しく考えなければならぬというの、何かすごい大変なことだなあと。ずっと続けているやり方でやればすごく楽なんですけど、「コロナだから、違う風にやろう」って、やり方を考え直さなければいけないっていうのは、私も保育士をしていてすごい感じているので。本当に先生たちの健康は大丈夫かなって…。音楽も歌が歌えないというのを聞いていたので。これが終わるときが来るのかな？というのが、いつ終息して、じゃあ何年生から普通の、歌が歌えたり、体育ができたり、バスケができたり、っていうのがいつになるのかなって思うんですが。何年後からというのを、教育委員会や学校がどういう風に考えているのかなあって…。川中子 ありがとうございます。子供たちにですね、体育とかでふれあうなって言ったり、音楽で「歌うな！」「歌っちゃいけま

せん！ 心の中で歌ってください。」なんて音楽の先生が、本当に苦心してやっているんですが、本当に見ていると、涙が出そうになりますね。つらい、ことですよね。普通のことなのに大事だったのだから気付かされました。2年生のEさんもそうですが、1年生のお子さんたちも、もう、コロナ禍の中で入学してきましたので、Aさんなんかはお子さんの様子はいかがですか。

Aさん そうですね。まだ1年生で、入学したばかりですので、昨年までと比較するのが難しいというのはあるんですけど。まあ、自分が思っていた以上に学校の中で制限というのがある、大変な状況なんだなって言うのが、今お話をさせていただいてよく、改めて実感できました。自分の子供に関して言うと、かなりいろんな事が制限されている中、身体的にも精神的にもどういった影響があるのかなって言うのが少し気になっているのと、校長先生のお話の中にありましたけど、もごもごしゃべって言う。うちの子もあまりはきはきはしゃべる方じゃなくて、それがマスクの影響なのか、子供の性格的なものなのか、ちょっと分からないところもあるんですけど。

川中子 ありがとうございます。本当に、1年生はコロナが当たり前の中で入ってきていますからね。前と比較することができないと思います。Bさんのところはいかがですか。

Bさん うちのところも同じように、一概に今までのことと比べることはできないんですけど。たまに、これは「コロナだから、〇〇ちゃん、手つないじゃいけないんだよね。」とか軽い感じで言われたときに、なんて言えばいいのかなってちょっとうまく言い返せなかったりしたりとか。後は、行事とか、楽しいお祭りとか、夏にはあったじゃないですか。それが2年も、3年も前の話なので、これ夏祭りの時着たよね、いつ着れるようになるかな？とか、家庭でも悲しい気持ちになったり…。子供の気持ちを切り替えられる言葉を、大人もうまく言えなくて、そういうときに、どうやってあげたらいいのかなっていうのも思いますし。外見上普通だけれども、実際は本当に何考えているんだか、子供だからうまく表現できなくて。お互いにもどかしさを感じたりですとか。いろいろ心配なところはありますね。はい。

川中子 そうですよ。本当に。地域のお祭りなんかみんな中止になっちゃっていますものね。子供の時代に経験しなければならぬことを、経験できないって言うのは。これから先どうなっちゃうんだろう、っていうのは、誰にも分かりませんからね。それでは、Cさん、Dさんは、コロナの前から学校に通っているお子さんもいますが、いかがですか。Cさん。

Cさん 特に子供らしい活動ができないということに心配を感じています。例えば、本来ならマスクなんてしていないのに、マスクをしていたり。マスクをしていないと注意されたり。私も注意しちゃいますけど。もしくは、友だち同士でできることも制限されていて、この時期に学ばなければいけないことも。友だちとの関係なんか希薄になってしまったり。それが、大人になったときどういうふうに影響するのかなと、心配はしています。以上です。

川中子 ありがとうございます。本当ですよ。Dさんはいかがですか。

Dさん 最近感じることは、我々大人はコロナの前の事って言うのは鮮明に覚えていて。コロナ明けの際には昔に戻るような気がするんですが、子供たちはもう忘れてきてまして、今が普通のような状況になってしまっていて、コロナの前にこういうことがあったよね、っていうのがない、記憶が薄れていて。それはうちの子だけでなく、周りの子もそうで。我々大人と全然違うんじゃないかなと言うのを、最近心配しています。

川中子 そうですね。そうかもしれませんね。子供たちって順応してしまうという特技、というか能力があって、その環境にずっと順応してしまいうすいんですけど。その、順応してしまうことがいいことかどうかは別の問題ですからね。

子供たちの様子もそうなんですが、保護者の皆様のご自身や周りの大人の方々の様子はいかがですか？

Cさん 飲み会、したいです！



川中子 (笑) 本当ですね！ あの、飲み会もですね、3月から4月くらいまで、毎日飲み会だったりして、大変だなあなんて言っていたんですけど、なくなってみると、たいへんだなあっていつか気づいたことがすごく大切なものだったんだなあと感じています。それから、先程、教職員の健康のことをお話ししたりしたんですけど、先生たちもいろいろ苦労することは多いですね。当然のことですけど。ベテランの先生もいれば若い先生もいるわけで、若い先生なんかは経験もなくていろいろ分からないことも多いですね。それが、例えば、学校終わった後、飲み会に行くと「心配すんなよ！」なんて先輩に言ってもらったり、そういうときはこうしたらいいんだよ、なんてお酒飲みながら、笑いながら話しをするっていうのが、実は、とっても心の安定を図る上で大事だったのかな。それから、お酒だけじゃなくて、実際、逢って話しをすることすら少なくなっているんじゃないかな。実際、職員会議も全てこのZoomを使ったオンラインで、それぞれの教室に分かれて行っていて。職員室が密にならないように。そうすると、雑談をする時間がないんですよ！ 雑談って言うのが、いかに大事だったのかなっていうのを感じる場所ですね。お仕事されていて、皆さん、どうですか？ そのあたりは？

Aさん、いかがですか？

Aさん はい。まさに、まあ、おっしゃるとおりで、私は営業職なので、お客さんとの面談というのもZoomの割合が増えていて、ほんとに、まあ、そうですね。雑談、ですとか、商談以外の会話、まあ、雑談ですね、そういうところが非常に、これまで無意識のようにやっていたんですけど、以外とそこで人間関係ってできてたのかな、っていうことを感じています。

川中子 Bさん。女性の方なんかはいかがですか。

Bさん はい。私は、今、専業主婦なんですけど。やっぱり、ママたちの間でも、外で会ったときに、ちょっとした会話をするのも、今はあいさつ程度で「バイバイ！」っていうのがさみしいなって。先程校長先生のお話にもあったように、雑談？友だちのうちに遊びに行くって言うのは、今できない状態なので。その時には子供同士のコミュニケーションはもちろん、大人同士で、普段子供が家でどうしているかとか、学校でこういうのがあったよとか、知らなかったこと？ 他の子から見た、うちの子の対応の目線というのを聞くのは、いろいろ新鮮なことがあったんで。ああ、こういうことをしているんだ、うちの子は。反対に、こうなんだなあって、第三者の目線での意見を聞ける、いい場だったんですよ。それがなくなって、親目線でしか子供を見られていないので、子供をいろんな角度で見た意見というのを聞けなくなってしまったのがやはり、ちょっとさみしいなって思うところですね。

川中子 そうですね。もしかしたら、その代わりに、SNSなんかを使ったりして、情報交換をされてるのかもしれませんが。そういうのと、実際にあってお話しするのは、かなり違うんじゃないかなと。誤解なんかも、しやすくなるんじゃないかなということも懸念しているところですね。

Eさん。保育園の先生方はいかがですか？

Eさん 私、まだ3年目なんですけど、まだ一度も親睦会、というか、

そういうのが一度も実施されていなく、今年も多分、ないだろうということ。保育士って言うのは、シフト制で同じ時間に来て、同じ時間に帰るってことじゃないので、なかなか違うクラスだったら会えなかったり。そういう飲み会、とか、みんなで集まって話すって言うのも全くないので、そういうのがあったら、親睦を深められるのになって言うのと。あと、個人的に、実家が新潟の佐渡島なんですけど、もう2年里帰りできてなくて、子供は毎年夏に1週間くらい佐渡に行って、海に入ったり、おじいちゃんと魚釣りをしたり山に行ってカブトムシを捕まえたりっていうのを楽しみにしていたんですけど、それももう2年もいけなくて、今年もその予定がないので。それが子供にとって大事だなあって思っていたので。それが悲しくて。もうちょっと年齢がいっちゃうとそういう風に家族で実家に、おじいちゃん・おばあちゃんのところに行くって言うのが楽しいことなくなる年になっちゃうので、この小さい内にいっぱい連れて帰ってあげたかったんですけど、そういうのもできなくなってすごく残念だなんて、個人的には思います。以上です。

川中子 いやー、そうですか…。Dさん。Dさんは会社にいろいろな方がいて、部下の方とのコミュニケーションなんかについてはいかがですか？

Dさん そうですね。最初は、商談もミーティングも、Zoomってけっこう便利だな、と。資料を共有できたり、その場で書いて、みんな目の前で見れて。だんだん、さっきの飲み会じゃないですけど、レジュメに沿ってやって、終わっちゃうっていう。雑談というか、新しいことが生まれるって言うのがなくなってきたなあと。あとお客さんだったり、協力会社だったり、結構いろんな会社さんと飲み会に行っていたんですけど、まあ、商談の移動時間は減ったので最初はまあ、いいのかなと思っていたんですけど、違う会社さんとの協力してやる事業が、たんたん進んでいるというか。っていう感じがしますね。そろそろ、飲んじゃおうか、なんて言っているところ。 (笑) 来期の目標どうしようか？ 飲んじゃおうか！ 本当にそういう話が出ますね。あと、部下たちとは、テレワークが入っているんで、全員そろわなくなっちゃって。さっき、実家に帰れないって話がありましたけど。一人暮らしで、毎年何回か実家に帰っている人たちも、ずっと長期の休みでも東京にいて、友だちにも特に会わず、ずっと部屋にこもって、生活リズムが狂って、週明け遅刻とかが増えました。あの、そろそろ、ワクチン打って元に戻らないと、若い子たちが、先程の先生たちじゃないですけど、鬱っぼいのが増えて、休職が今まで一番多いかもしれません。はい。

川中子 そうですか。本当に深刻ですよ。実際のデータなんかでは、メンタルクリニックにかかっている人の数は軽く2倍になっちゃっているっていう話もありますし、自殺者がとにかく増えていると。実際、私も電車で通勤しているんですけど、人身事故がすごく多いんですよ。このところ。うちに帰るのが4時間くらいかかったりしてですね。それはそれでまた大変なんですけど。人身事故があるって言うこと自体が、悲しいことだなんて思います。それから、雑談の話なんですけど、先日NHKでも特集していたんですけど、雑談が非常に大事であると言うことが分かってきたと言うことで、GAFという、世界で一番大きな企業になっているなかでアマゾンという会社がありますね。そこは、いままでテレワークをやっていたんだけど、今年度に入ってからテレワークをやめてオフィスをつくったって言うんですね。わざわざ。そこにみんなが集まって、雑談をするスペースをつくったと言うんです。雑談をすることの中から、新しいアイデアが生まれると言うことが分かったので、テレワークをやめることにしたと決断したという、先進的な考え方の会社もあるんだそうです。私自身も、副社長と雑談ができなくなって。給食をいっしょに食べてたんですけど、感染予防のため、別々に食べてほしいと言われ。大分、抵抗したのですが、強行に別々にという話があり。別々に、一人で食べてるんですけど。その時に、15分くらい、お昼を食べながら馬鹿な話をしていただけなんですけど、その中に、「そういえば、あれってどうなっていたっけ？」という雑

談があって、それがいかに大事だったかということが。業務に大きな支障が出たわけです。かといって、「雑談しようぜ！」っていう時間をつくることって、なかなかできないんですね。そうすると、食事って言うのが人間にとってどういう意味を持っていたのかっていうのが、今、こういう世の中になって、感じている人が多いんじゃないかなって思います。Fさん、今、着ていただいていると思いますが聞こえますか？ 大分お話しは進んでいるんですが、自己紹介と最近コロナについて感じることをお話しください。

Fさん はい、聞こえています。おはようございます。3年生の保護者（母）です。コロナ、子供への影響では、家にお友達を呼べないとか、いろんなところに、今しかできないことがさせてあげられないのがかわいそうだなと思って。一緒に過ごす時間は前よりは増えたって言えば増えましたね。

川中子 そうですね。去年、休校中なんかは、おうちで過ごす時間が増えて、なかなか家族と一緒にいられなかったのが、家族でいる時間が増えたと。増えてよかったところと、増えてけんかがふえたなんてお話しもありましたね。確かに、家族のこと、家庭のことを見直すいいきっかけになったという、そういういい点もあったかもしれませんね。

Fさん そうですね。大分この生活にも慣れて、子供もそれなりに、いきいきではあそんで。それが毎日楽しいみたいです。

川中子 そうですね。ありがとうございます。

それでは、話しを進めていきたいと思いますが、ちょっと話題を変えて、皆さんにも考えていただきたいことがあります。ちょっと画面を変えます。

オリンピック・パラリンピック学校連携観戦というのが見えますか。8月28日2, 3, 5年生。9月2日1, 4, 6年生が行くことになっています。今、また感染の状況も高まっていて、本当に観客を入れてできるのかなんていう話もありますが、東京都としては、主催地でもあるので、都の子供たちには感染させてあげたいという気持ちで2年くらい前から話しがあったんですが。現段階で東京都教育委員会は観戦をやろうと、言っていますので、本校も、墨田区教育委員会も行くということで準備を進めています。実際ですね、恐ろしいところがありまして、コロナのことはそんなに恐れなくてもいいかなと私も思うんですが、むしろ熱中症がですね、大変心配なんです。マスクをしていることもあって、熱がこもりやすい事もあるって、熱中症はとて怖いです。まず、ここから曳舟駅まで300人で歩いて行きます。東武線に乗せて、浅草で銀座線に乗り換えさせます。向こうの青山何丁目とかで降りるんですけど、そこで降りてから、一人一人水筒の中身まで点検をして会場に入れるというセキュリティの状況があるんだそうです。おそらく、駅に着いてから席に座るまでに1時間半くらいかかる恐れがあると。たぶん、座って20分か30分でもう帰らないとなりません。こういうのを二日間予定しているということです。これは、校長会でも無理でしょう、という話が出ていまして。ただ、学校によって、行く場所が違うんですね。国技館でやっているのを見に行く学校もありますので、近くていいなんんていうのもあったり。こんなことも学校ではとても心配しているところ。このあたりはいかが思われますか？

Eさん はい。その話を聞いていると行かなくていい気がします。確かに、おっしゃったとおり、熱中症って言うのは近所の夏祭りでもすごく気をつけているところで。駅に着いて、青山1丁目から1時間半だったら、大人でもいやになりますものね。管理も大変でしょうし、先生たちの。あと、体調も心配だし。やらない方がいいような気がしますね。

川中子 実際、区によって対応も違うんですよ。もう行かないと宣言している区もたくさんあるんですよ。本当に一生に一度あるかないかのことで、できれば見に行く機会があるのは素晴らしいと思うんですけど。本当に、このような状況の中で現実的なのかどうか。今、バスも空いているので、バスを出してくれたらいいのになとも思うんですが。それは考えてないと。本校だけで300人ですけど、多分東京中の学校が動いたら、何千、何万という人が動く可能性があるんじゃない

いかなと思いますね。

Dさん まず、思ったのが、私もせっかくの機会なので見学させたいと思いますし、一生に一度の機会になるかなと思います。1時間半というのは、そこがどうかにならないかなと思いました。小学生ですので、荷物のチェックなんかはスルーさせて。なんか、あらゆるルートを使って。国会議員とか？（笑）特別な入場門を作ってもらおうとか。それから、300人が同時に電車に乗るというのは、他の学校も含めて、かなり混雑すると思いますので、電車で行くというのはあまりリーズナブルな選択じゃないのかなと思います。最後は、対策のところですが、塩分を持って行くとかぬれタオルを持って行くとか、そういったところをやらないといけないかなと思いました。

川中子 本当に、工夫してできることがあるならやっていたきたいですね。なかなか難しいところもありますね。ただ、早いところは今月の後半に、開幕してすぐっていうところもあるので。まだ教育委員会から結論が出されていないので、校長会としても心配しているところです。

それでは、最後に、もう少し確認させていただきたいのですが。私自身は、今日皆様にお話ししたいのは、先日6月10日にオンラインで行われた、小児科の先生がお話ししてくれたセミナーに参加したんですが。富山大学の種市先生という方が、教育委員会と連携して、コロナとたたかっているというご報告がありました。この中でお話しされていたんですが、最初にAさんがお話しされてましたが、子供についてのいろんな情報って言うのがあるんですが、子供の専門である小児科医の話って言うのはあまり聞く機会がなかったなあと。いろいろな噂はでているんですが、実際データを見ると、昨年始まってから今年の5月までに新型コロナウイルスで子供が死んだというのは0件だそうです。それに対して、インフルエンザで亡くなった子供というのは、毎年40人とかいるんだそうです。そう考えると、コロナウイルスって言うのは子供にとって恐怖なのか？っていうのを医者さんが言ってました。過剰な感染予防対策によって、子供たちが背負うリスクはこんながありますよ、というお話を聞いていたんですが。1時間半くらい。そして、その医者さんが最後に言っていたのが、可能な限り子供の活動を制限しないでやらせよう。それから、感染についてゼロのリスクを求めないようにしようと。ここはとても大事な視点だったなと思いました。絶対にコロナの感染者をださない、ってなれば、どうしても予防対策が過剰なものになります。子供たちが感染したときに、責めたりしない。それから、子供たちのデータを蓄積していくことが大事だと。専門家が対策を考えていくということ。できる限り子供たちに自由を残してあげたいとお話しされました。

私は子供たちに3密になってはダメだよ、と言いますが、実際子供たちはどうしても近づいて楽しく遊んでいるんですね。でも、それを、何が何でもダメだよっていう風には今していません。極端にあぶない場合を除いては、子供たちの様子を見るようにはしているんですけど。できる限りの感染対策ということで、マスクをすとか、手洗いをすとかは続けていくんですが、例えばボールを1回使ったら消毒するというのは、無駄な努力なんじゃないかなと思うわけです。ただ、正確なデータ、科学的なデータに基づいて、いろんな事を判断していかなければなりませんから、本校の教育目標にもありますように、「自ら学び、考え、行動する人」であることが、大人たちにも、子供たちにも求められているんじゃないかなと思います。

今日は、私自身が教職員が病休に入ってしまったなど、悩んでいることもありまして、最近のコロナの状況について、保護者の皆様とお話しさせてもらえたらなと思いました。これからも、私の悩み事も含めて、保護者の皆様とお話をしていくことができたらと思いますので、これからもどうぞよろしくお願いします。今日は、どうも、ありがとうございます。1年生の保護者の皆様はこれから引き取り訓練がありますのでよろしくお願いします。それでは、さようなら！